

「障害者観」を考え直す

白石大介 (かたつむり21 参与)



社会福祉の法制度が大きく変わりつつあります。よいように変わればよいのですが、行財政改革の下に、中身が希薄なものにならないようにしなければなりません。

そもそも社会福祉とは何か。社会保障を中心にした、弱者救済的なニュアンスがまだまだ強いよう

に思えてなりません。ごくごく狭義には、確かにそうした意味がないわけではないのですが、実は社会福祉は国民全員が対象であり、医療費や年金、各種社会福祉サービスの内容については、われわれの身近な課題であり問題でもあるのです。つまりは、安心して、より幸せな暮らしを求めるのが社会福祉の目的だからです。

ところが、私は夜間の大学院で社会人を対象に福祉系の科目を教えているのですが、印象的に言うと、特に学生である学校現場の教師が福祉系の科目に関心を示さない傾向があります。これには、教員養成課程、国や教育委員会のあり方に問題があると考えざるを得ません。もっと根本的に言えば、そうした学校文化や教師文化の背景にある日本文化に起因していると言えます。歴史的に社会福祉が軽視されてきたと言えます。21世紀には、自己の問題として社会福祉に対する国民意識の改革が求められるところです。

わが国で、障害者とみなされる数字は約614万人。おおむね5%です。つまり、20人に1人ということになります。ところが、オーストラリアでは人口の約20%、5人に1人が障害者と見なされています。これには、明らかに「障害者観」の違いがあります。例えば、卑近な例で申し訳ないのですが、私は8年前に胃ガンの告知を受け、胃を全摘しました。今も胃がないのでその後遺症に悩み、苦しんでいます。しかし、わが国では障害者として認定されていません。オーストラリアでは認定されています。同じ障害をもちながら、国によって認定の仕方も、福祉サービスのあり方も違います。その違いを正していくには、国民の社会福祉の考え方、障害者観のもち方が大きく影響します。

それには、教育のあり方が問われます。デンマークに何度か行きましたが、当地では「教育が行き届けば福祉も行き届く。福祉が行き届けば教育も行き届く」と幾度も幾度も耳にしました。福祉教育だの、人権教育だのあえて言わずとも、教育が本来の機能をしていれば、「教育」の前に修飾語をつける必要などないのです。わが国の教育が「人間教育」から外れた結果、現状があることを再認識したいものです。

これからは、「障害福祉」もさることながら、「障害学」を重視すべきです。つまり、前者は、社会的弱者として福祉サービスの恩恵に浴するといういわば他律的なものです。後者はといえば、自らが自律的に「障害」について考え、発信していくものです。僕は、兵庫県の障害施策推進協議会の会長をしています。もう辞めたいというのが本音ですが、自分自身「内部障害者」、3年前から鬱病を抱え込み、これも当事者として最後の「社会への恩返し」として、もうひと踏ん張りしなくてはと考えています。行政との闘いでもあります。皆さんからのご支援を期待しています。

40数年前に大阪肢体不自由児サービスグループの創設に関わり、草創期のSG活動に携わった者として、皆さんが今も「障害者と共に歩む」活動を継続されていることに心から敬意を表します。同時に、皆さんの活動そのものは、生きた「障害学」の実践に他なりません。今後ともご健闘を祈ります。感謝！（武庫川女子大学 教授）

新会員のご紹介

宋 英光さん (元SGメンバー、社会人)

辻本 角義さん (大阪府健康福祉部地域生活支援課長)

音納 正一さん (社会人・不動産業)

SG後援会「かたつむり21」

会長：黒川 芳朝 事務局長：松木 彰造

〒542-0081 大阪市中央区南船場1-10-12

TOWAローゼンビル長堀403

電話・FAX：06-6264-1919

事務局 Mail：qmdtj092@ybb.ne.jp

伊賀・忍者キャンプ お疲れさまでした～



2008 SGサマーキャンプ Sub PD 由良 美和子

この夏、PDの松永幸子に誘われ初めてSGキャンプに参加、しかもSubPDという大役を任せられました。今年のキャンプは、8月1～3日の二泊三日、場所はSGが初めて利用する三重県伊賀の野外活動センターです。初参加のキャンパーが多かったのですが、皆元気一杯でした。キャンプのテーマは伊賀にちなみ『忍者キャンプ』としました。

プログラムを“忍者修行”を中心に組み立て、頑張った子どもには手作りの手裏剣（折り紙）をプレゼントしたり、ナイトハイキングでは火文字で『出会い』のメッセージを演出したり、手の込んだ仕掛けもみんなの協力で上手いきました。そして最終日にはキャンパー一人ひとりに「忍者検定書～何と本格的な巻物！～」を渡しました。

猛暑の大阪では考えられない快適な環境のキャンプ場でしたが、難点は急な坂が多く、車いすでの上り下りでは大勢の方々にご迷惑をおかけしました。でも、私自身は皆さんの全力に引っ張られ、最後には何事にも代えがたい達成感を味わうことができました。

子供達の笑顔や歌声、その存在そのものに、とても癒され元気づけられました。この出会いを一生大切にしていきたいと思います。すばらしい体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

・参加者：キャンパー／7名、スタッフ・リーダー／27名（内、かたつむり21及びその関係者7名）

鯛の塩釜焼き…おいしかった！



佐々木 瑠美（キャンパー）

今年、はじめてキャンプに参加しました。

二泊三日で行くのは、はじめてだったので、きんちょうしました。でもスタッフのみんながやさしかったので楽しかったです。一番楽しかったのはTシャツ作りで、好きなことばの「初恋、恋空」とピカチュウをかきました。

シェフの衣川将治さんの作ってくれた鯛の塩釜焼きがとてもおいしかったです。魚は苦手だったけど、おいしく食べることができて、家でも作って！とお母さんに言いました。

イケメンの人がたくさんいて、とても照れました。みんなが名前や生年月日をおしえてくれました。

来年もかならずキャンプに参加したいとおもいます。スタッフのみなさんありがとうございました。


（堺支援学校高等部2年）

暑かった！しんどかった！おもしろかった！

宋 英光（かたつむり21）



10年ぶりにカウンセラーとして参加したキャンプ、こんなオジサンカウンセラーで子供たちが懐いてくれるのか？！と、不安と緊張と期待に包まれながら集合場所へ。。

そして、いよいよキャンパーや他のカウンセラーとの初対面、最初ははややぎこちなかったが、バスに乗り、キャンプ場に到着する頃にはすっかり打ち解け合い、その後の2泊3日間でリーダーとキャンパーとの信頼関係もでき、個人的には充実したキャンプを 

過ごせたと思います。

私がSG委員会メンバーとして活動していた頃のキャンプと比べ、リーダーやキャンパーの募集の難しさや、その他の問題がありSGキャンプを続ける事自体が難しいという現状の中、現役で活躍されてる現委員会メンバーや、かたつむり21で活躍されている方々の労力のおかげで、今も創立以来の療育キャンプ精神を活かした活動が脈々と続けられているものだと思います。

今後も規模や形態が変化しても、SGキャンプがいつまでも続けていけるよう、今回のキャンプの参加をきっかけに微力ながら応援したいと思います。

会員だより①

“オッチャン・オバチャン” 元気です 西川 定男/知恵



昭和40年にグループが発足され、早43年が経とうとしています。キャンプの第1回目から食堂として参加しましたが、家族の食事しか作ったことのない私には無我夢中で、今では考えられない格好で、大きな古い乳母車で食品を買い出しに行きました。

当時は30代後半でした。薪で60余名の食事を作るのですから、空も子ども達も眺める余裕もなく火との格闘でした。しかし、大勢の学生さんと出会い、今もなお思い出に残る人々が脳裏に浮かんでいます。

第2回目からプロパティとして参加した主人（通称オッチャン）は、川の上流から太い竹筒で水を引き、おいしい水が絶え間なく溢れ出しました。

そのオッチャンも80歳、私も76歳になり、今は自分自身の体と頭を衰えないように、私は水中体操、オッチャンは背中が丸くなってくるので社交ダンスで体調を守っています。

ところで去る5月、海外旅行でトルコへ行ってきました。キノコの形をした岩が立ち並び、見渡す限り白く青く輝く温泉の石灰棚や数多くの世界遺産を堪能してきました。

毎年8月になればキャンプの夢を見ます。事故もなく今日有るのは皆さんの努力の賜と感謝しています。いつも全員が健康でありますようにと念じています。

“子らの声、山にひびくや蝉しぐれ”

会員だより②

ご無沙汰です 次号でご勘弁を！



恩塚 俊男

皆さん、大変ご無沙汰していますが、お変わりありませんか。

私の方は至って元気にしていますが、最近、同じ河内長野市内で引っ越しをしました。

荷造り・荷ほどきの真っ最中に「会員便り」の原稿依頼を受けたのですが、片付けに手間取っておりまして、申し訳ありませんが、次号のお楽しみということで、ご勘弁下さい。

会員だより③

楽しい仲間たちを紹介します



村瀬(旧姓:寺川) つぐみ

能勢の山でのキャンプや楽しい思い出と共にあるSGの日々から30年以上が過ぎているんですね。

今、私は知的障害の人たちの作業所に勤務しています。作業所は現在、就労継続支援B型の施設として仲間

14名とともに毎日仕事に汗を流しています。

ちょっと楽しい仲間を紹介しましょう。

食べることが大好きな自閉傾向のA君。旅行中の宴会で「もう、ご飯いらんよね！」とこちらでヒソヒソ話をしていると、少し離れた舞台上でカラオケに熱中していた彼は、歌の合間にマイクを通して、「ご飯、食べま〜す！」。…なんでご飯の話が聞こえたの？ 仕事の話は聞こえないのに…。

言葉もほとんどしゃべれない重い障害のBさん…でも動作などで状況を理解します。健康のためには痩せた方が良いんですが、本人は理解できません。

行事でフランス料理を食べに行くと、大きなお皿に料理が少し。フルコースを食べ終わって、さぞ満腹になったかと思いきや、お迎えに来たお母さんの顔を見た途端、「ご飯！」と叫んだ…。足りなかったのね。

他の仲間も食べる事が大好きで、ユニークな個性を持っています。でも彼らは障害があるがゆえに個性では済まされない困った面もたくさん抱えています。

健常なら成長するにつれて自分で学びますが、彼らはそれが十分ではありません。障害に関係なく常識として、してはいけないこと、又はしなければならないこと、学んでこれなかったこと、などを日々支援して行くのが大切な仕事と思っています。

2008 能勢オータムキャンプのお知らせ

“能勢パラ”って面白そうやんかあ～

オータムキャンプ実行委員長／林純子 キャンプ長／宋英光 PD／杉野雅子

「能勢パラ」って何のこと？ 酒池肉林の「能勢パラダイス」ではありません。ましてや「パラドックス」や「パラグライダー」とも違います。詳細は、案内状をご覧ください。

- ・と き：2008年11月15日(土) 午後1時(集合)～16日(日)午後5時(解散)
- ・と ころ：能勢ダイヘンキャンプ場 電話：0727-37-0080
- ・集 合・解 散：ホテル阪急インターナショナル1階正面玄関(車寄せ前)
- ・参加費：社会人／3,500円 学生以下／無料
- ・申し込み：案内状添付の返信用はがき、事務局宛のFAX・メールでご連絡下さい

どなたでも参加できますので、お知り合いの方も誘って大勢参加して下さい。

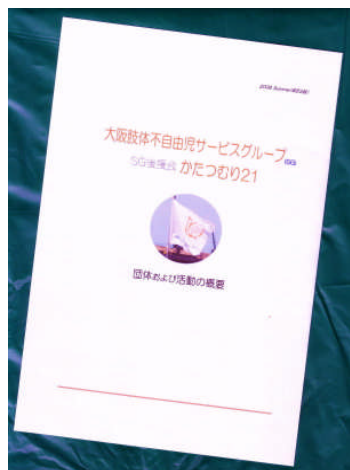
SG・かたつむり21のパンフレットを作成

黒川 芳朝 (かたつむり21会長)

「大阪肢体不自由児サービスグループ(SG)」って、どんな団体？ SG後援会「かたつむり21」って何をしているの？ これまでもそんな声がありました。口では説明できてもまとまった資料が無かったのです。

40数年にわたる活動の歴史を持つSGですが、府内の支援(養護)学校を訪問しても、説明資料はその都度適当に作成しているのが実情でした。

また、SGメンバーですら、過去の経緯を知らない方が増えています。そこで、役員会ではこれまでのSG活動の歩みを解りやすく説明したパンフレットを作成することにし、このほどできあがりました。



写真はパンフレットの表紙

『SG／かたつむり21・団体及び活動の概要』です。A4版16頁カラー刷りで、前半は創設期からのグループの歩みを時代背景を認識しながら写真も使って紹介しています。後半はキャンプなどの主要事業を年表として整理しました。また、SG規約と本会の会則、SG委員会メンバー・本会役員も記載してあります。

なお、年表については不十分なところが多々あり、今後、事務局に保管してある年度別資料を精査・補強し、来年春には「2009 Spring版」を作成する予定です。

今回、機関誌とともに一部お送りしましたので、SGのPRや本会会員の拡大にお使い下さい。

また、必要部数をお知らせ頂ければ別途お送りしますので、事務局までご連絡下さい。もちろん無料です。

サービスグループの今後の活動予定

SGの今年後半の活動予定です。

- ・9月23日(火・祝) 思い出会(実施済み)
- ・10月19日(日) SG総会(長堀事務所)
- ・11月9日(日) ジュニア遠足(行き先調整中)
- ・12月中旬 ジュニアクリスマス会
- ・毎週土曜日午後7時から委員会ミーティング

かたつむり21の皆さん、時間に余裕のある方は是非覗いてみて下さい。時間・場所等の詳細は、事務局までお問い合わせ下さい。 SG委員会

会費納入のお願い 本会の運営や事務所の維持は、皆さまの会費に依存しています。滞納されている方は、分割でも結構ですから納入のほど、お願い致します。

編集後記

SGの夏のキャンプでは、満天の星を眺めて大自然の中でのキャンプの醍醐味を味わいました。9月の中秋の名月、大阪では満月と星が一っただけでした。

さて、この広報誌も7歳となりました。この広報誌を通じて、遠方の方や多忙な方にお会いできなくても、満天の星のもとで繋がっていると確信しています。

(林 純子)